

**WAKASHIO号事故に関するモーリシャスの環境回復・
地域貢献に向けた当社の取り組みについて
～モーリシャスと共に～**

2020年9月11日

株式会社商船三井

モーリシャスの環境回復・地域貢献に向けた 当社の取り組みについて ～モーリシャスと共に～

1. 自然環境保護・回復プロジェクト
2. 現地NGOおよびモーリシャス政府・国際
公的機関の基金への拠出
3. 人的貢献
4. 地域社会・産業への貢献

1. 自然環境保護・回復プロジェクト



(1) マングローブ保護・育成プロジェクト

- マングローブ林の生態を傷つけない清掃
- マングローブ林下に棲息する生物多様性の保全
- マングローブの植林



協力：日本マングローブ学会、モーリシャス大学



弊社現地派遣団撮影による現地マングローブ状況一部

1-②. 自然環境保護・回復プロジェクト（続き1）

（2）サンゴ礁回復プロジェクト

- A.I.等最新技術を利用したサンゴの早期育成と移送
- 海中サンゴ棚でのサンゴ養殖・移植
- 海中に浮遊する泥質物からのサンゴ礁の保護



現地サンゴ棚での養殖の様子(Pointe aux Feuilles)



養殖実験のイメージ(株イノカ殿)



助言・協力先：(株)イノカ、モーリシャス大学、アルビオン水産研究所、EcoMode Society

1-③. 自然環境保護・回復プロジェクト（続き2）

（3）海鳥の保護・希少種海鳥の研究

- ・ 海鳥の保護、希少種保護に関する研究支援



モモイロバト



モーリシャスハウセイインコ

（4）モーリシャス自然環境回復基金（仮称）の設立

- ・ 上記(1)～(3)のプロジェクト・研究の遂行を目的に創設
- ・ 当社は発起人として数年間に亘り8億円程度の拠出を予定
- ・ 個人・法人からの拠出も受け入れ可能とする予定
（本船船主である長鋪汽船から拠出の意向表明あり）

運営支援：(株)日本総合研究所

2. 現地NGOおよびモーリシャス政府・国際公的機関の基金への拠出

モーリシャスの自然環境回復活動支援の為、複数の現地NGO(註1)への寄付、およびモーリシャス政府関係団体・国連等の公的機関が設立している基金(註2)への資金拠出。合計で1億程度の拠出を予定。

- (註1) 当社の現地派遣団が接触し、その活動を支援するNGO(Mauritian Wildlife Foundation, EcoMode Society, Reef Conservation等) 一部のNGOとは、前掲“1.”のプロジェクトにおいて長期的な協力関係を持つ可能性があります。
- (註2) モーリシャス政府が設立した漁業従事者への支援基金および支援団体(The Fishermen Welfare Fund, Mauritius Oceanography Institute等)への拠出含む

3. 人的貢献

(1) 当社グループ社員の現地への派遣継続

- 現在派遣中の第1陣、第2陣（計13名）に引き続き、9月中旬に帰国予定の第1陣の帰国と入れ替わる第3陣を派遣予定

(2) モーリシャス駐在員事務所の設立（発表済み）

- 現地における関係当局やモーリシャス地域社会との中長期的な連携・対応を目的に本年10月に設立予定



現地Special Mobile Forceと弊社
派遣団長（援助物資引き渡し）

(3) 社員研修の実施

- 当社グループの世界各地の社員を数名選抜し、毎年モーリシャスにおいて研修を実施、海洋汚染防止や自然環境保護に対する理解を深めると共に、地域社会貢献活動に参加

4. 地域社会・産業への貢献

(1) 漁業水産業の貢献

- 漁業の発展に向けての支援については、現地のニーズを踏まえて今後様々な方策を検討
- そのひとつとして、コールドサプライチェーン整備の要望を受けて、冷凍コンテナ1本を寄贈（9月11日現地到着予定）



贈呈予定のリーファーコンテナ

(2) 観光業への貢献

- 商船三井客船の“にっぽん丸”による、日本発着モーリシャス寄港クルーズの実施。催行時期は2022年を念頭に計画。



ポートルイス港（モーリシャス）遠景

当社環境回復・地域貢献策（4つの柱）＝まとめ＝

